

第19回地域医療検討会
平成21年10月14日 in コミセン

西脇病院支援策を
考え実現するために

「プロジェクトN」始動！

勤務医の健康を守る病院7カ条

勤務医の健康支援に関するプロジェクト委員会

勤務医の健康支援に関する委員会では、2009年2月に病院に勤務する医師会員1万人を無作為に抽出し、勤務医の健康に関するアンケート調査*を実施しました。私たちはこの結果から、次のような「勤務医の健康を守る病院7カ条」を提案させていただきます。また、別に、「医師が元気に働くための7カ条」も提案させていただいております。

病院での組織的な改善は、医師のためにも、そして患者のためにも必要です。

なお、日本医師会でも、勤務医の医師賠償責任保険の制度化や女性医師バンクを創設して参りました。また、今後も勤務医の労働環境の整備のため、医師不足・偏在の是正等を図るための財源の確保や医師確保対策等を行政に働きかけ続けていきます。

勤務医の健康を守る病院7カ条

- その1 医師の休息が、医師のためにも患者のためにも大事と考える病院
必要な睡眠時間や少なくとも週1回の休日がとれる体制が必要です。
- その2 挨拶や「ありがとう」などと笑顔で声をかけあえる病院
挨拶から始まる良好な人間関係こそが職場の財産です。
- その3 暴力や不当なクレームを予防したり、組織として対応する病院
事例の多くは組織的対策により予防や早期解決が可能です。
- その4 医療過誤に組織として対応する病院
医師個人の責任ではなく、組織としての対応が医師・患者に必要です。
- その5 診療に専念できるように配慮してくれる病院
業務の効率化・補助者の導入などで負担が減ると、診療の効率もあがります。
- その6 子育て・介護をしながらの仕事を応援してくれる病院
柔軟な勤務時間、妊娠・育児中の勤務軽減、代替医師の確保が望まれています。
- その7 より快適な職場になるような工夫をしてくれる病院
清潔な仮眠室や休憩室、軽食がすぐに食べられると元気がわかきます。

* 調査結果の詳細は、日本医師会HP (<http://www.med.or.jp/>) からダウンロードできます。

日本医師会 勤務医の健康支援に関する プロジェクト委員会

1万人アンケートを実施。

この直接的な勤務医の訴え
を検討することが
支援の一つの方向性を提示
していると考えています。

支援に関する
「ワークショップ」を
先月行っていただきました。

その1

医師の休息が、医師のためにも患者のためにも大事と考える病院。必要な睡眠時間や少なくとも週1回の休日が取れる体制が必要です。

限りある医師数の中で、医師会が、今行っている毎日曜日の日直支援を継続し、さらなる病診連携を。市民病院の研修医を確保するための一つとして「西脇まるごと研修制度」を立ち上げます。これまでの病院内研修にとどまらず、開業医との連携、市民や商工会、「守る会」などとの交流も行います。西脇の産業（釣り針・織物）の見学会や、歓迎会・食事会、開業医の在宅訪問診療へも参加していただきましょうか。研修に来られた先生たちや学生さんたちを暖かく迎え入れ、また来ていただけるように、西脇そのものを気に入ってもらおう「町ぐるみの研修制度」です。新しいHP マスコミなどで呼びかけましょう。

その2

挨拶や「ありがとう」などと笑顔で声をかけあえる病院。挨拶から始まる良好な人間関係こそが職場の財産です。

まさに「守る会」のお母さんたちが行っている運動です。医師に感謝の念を持ち、大切にするという意志を明らかにしましょう。現在「ありがとうメッセージ」は小児科外来・入院病棟に設置されています。

「西脇小児医療を守る会」だけでなく、各科に「守る会」という意見もあります。

その3

暴力や不当なクレームを予防したり、組織として対応する病院。事例の多くは組織的対策により予防や早期解決が可能です。

実際、様々なクレームがありますが、不当なものが増えているようです。病院への支払い拒否・踏み倒しも日常茶飯事化していますし、入院の夜間のナースコールを用もないのに押し続けるような行為もあるようです。病院として対策チームを組織して、ケースによっては可能な範囲で「公開」することも考慮されるべきでしょう

その4

医療過誤に組織として対応する病院。医師個人の責任ではなく、組織としての対応が医師・患者に必要です。

病院が医師個人を守らないために、多くの医師が病院を去っていく事態が現実には起こっています。行政・病院が守ってくれるからこそ、救急患者などを積極的に受け入れることが出来るのです。市民病院が何をしてくれるかではなく、厳しい環境の元で献身的に地域の安全を守っていただいている医師に対して病院はもちろん、地域も支え、守ることが重要です。

その5

診療に専念できるように配慮してくれる病院。
業務の効率化・補助者の導入などで負担が
減ると、診療の効率が上がります。

医師が本来の診療に専念するためには、
業務の効率化などが重要になります。

「書類書き」に追いまくられていたのでは、診
療活動に専念できません。

医師数の増加はすぐには見込めませんから、
看護師や医療補助者などの増員が必要です。

→医療補助者が、4名増員になります。

その6

子育て・介護をしながらの仕事を応援してくれる病院。柔軟な勤務時間、妊娠育児中の勤務の軽減、代替医師の確保が望まれます。

女性医師が増加の一途です。医学部入学時には、今女性が4割を占めています。女性には妊娠・子育ても大切な仕事の一つです。病院内で女性医師が働きやすい環境作りが問われる時代です。時代遅れでは、「いい病院」とは言えませんね。民間の保育を職員が利用する際への病院の「サポート」も含めて女性医師・看護師の働きやすい環境づくりが必要です。

その7

より快適な職場になるような工夫をしてくれる病院。清潔な仮眠室や休憩室、軽食がすぐに食べられると元気が出ます。

快適な職場には、様々な要素がありますが、心休まる環境が大事です。清潔な仮眠・当直室。掃除のボランティア。花壇作る市民・学生・シルバーのボランティア。診察室に花を飾るのは・・・。柏原病院や柏原日赤で実施をされていて好評なのは差し入れです。フォーラムに参加いただいた方たちに呼びかけて「差し入れ隊！」を組織しましょう。当直時に、ちょっと小腹が空いたときに良いんではないでしょうか？！

その他

市民フォーラムでは、多くの団体の方からの意見もありました。各団体の皆さんへ！

市民と病院をつなぐためには何が出来るのかを再度考えてください。

薬剤師会は「お薬相談」
商店街などに「地域医療を守る」小さな「のぼり」
車に地域医療を守る「ステッカー」を！
すべての公用車にステッカーを！

総区長会：28日に提案。各地区で医療に関心のあるメンバーを公募し、検討会に参加していくと！！
「出前講座」再開に向けても重要な区長会です。

まるごと「西脇」研修制度

病院

「まるごと西脇研修制度」を提案する。

これまで研修に来る学生を病院のみで受け入れてきた。
これからは、「町ぐるみ」で受け入れていく。

医師会

宿泊：病院・ホテル・ホームステイ（手上げ）

研修：病院内プログラム

開業医との連携プログラム

（含む在宅診療）

「守る会」への参加プログラム

食事：病院食でなく、歓迎会、報告会などで交流

西脇の紹介：特に「織物」「釣り針」「来住家」

「山田錦関連」などの会社見学など

市民

病院・開業医・住民・地域一体となつての
研修プログラムとする。

三者中心に、病院の担当事務などとともにプログラム
を立ち上げ、HPや広報活動（マスコミ）を展開する。

行政

「ボランティアセンター」を設置

「しばざくら」には、ボランティアが多数いますが、病院には十分なボランティアが確保されていないのが現状です。

病院の草刈り 生け花 病院の清掃
差し入れ 車いす介護など
様々なボランティアをここで
登録し、一括管理する。

院長・市長も設立を約束された。

設立後は、

広報などで呼びかけを行っていただきます。

「市民フォーラム」第2弾！

新市長誕生を踏まえて！

「地域医療を考えるー市長を囲むフォーラム」

時期・場所：今後検討

市長・病院・医師会・守る会・商工会・市民
などで参加し、基調講演の後、話し合いを！

そこで

「医療を守る町」宣言！

病院を支えるプロジェクト委員会を設立し、
今後の連携も礎を築いていく！！

プロジェクトN

「にしわきまるごと研修制度」、差し入れなどの具体的支援策は地域医療検討会を中心にプランを出すにしてもあくまで病院との密な連携なくしては成立しません。

西脇病院のモチベーションアップ委員会・地域医療室・医師などと地域医療検討会の連携を推進し、様々な支援策の具体的検討・実践のための取り組みを行っていきたいと考えています。

それが「プロジェクトN」です。

メンバー構成は、上記の病院メンバー（医師・看護師を含む）と地域医療検討会のメンバーから構成しますが、固定ではありません。実務的に身軽で動きやすさが必要です。定期的にも月一回程度の意見交換会を行いながら、支援策を具体的に随時推進していくプロジェクトです。